

								NPO法人 赤煉瓦倶楽部舞鶴 会報	
								発行人/理事長 日向 進	
特定非営利活動法人 赤煉瓦倶楽部舞鶴								会報 75号編集担当/石原雅章	
								〒625-0080 舞鶴市北吸 1039-2	
								(舞鶴市政記念館内)	
会報 75号 平成 21年 12月 28日								TEL0773-66-1096 FAX0773-64-6364	
「NPO法人赤煉瓦倶楽部舞鶴」ホームページ http://www.redbrick.jp/									

今回のお知らせ

1. まいづるRB・・・舞台装置としての赤れんが倉庫群
2. 文化財を活かした地域振興
3. 「赤れんがライトアート in 舞鶴 2009」開催中
4. 新企画(仮称)「舞鶴国際芸術祭」始動! 参画しませんか?
5. その他 ■赤煉瓦ネットワーク会報「輪窯」第072, 073号 ほか

1. まいづるRB --- 舞台装置としての赤れんが倉庫群



まいづるRBでは、2009年11月、これまで活用の機会が少なかった2号、6号、7号倉庫の劇場空間としての新たな活用方法を提示し、赤れんが倉庫群の歴史に新たな1ページを加えた。

11月6日(金)、2号倉庫では、劇作家・演出家の松田正隆さんによる舞鶴オリジナルの演劇作品『都市日記~maizuru』の上演を行った。一階奥のスペースを使い、簡易の客席を設置。倉庫の壁をスクリーンに見立てた舞台面奥には、舞鶴で撮影された映像が演劇の内容とリンクしながら映し出された。それは、さながら小劇場のようでもあり、おもむきある映画館のようでもあった。演出的にも、倉庫の二階部分を映像としてリアルタイムで利用するなど、魅力ある劇場空間として、倉庫内部の構造をアピールすることに成功していた。

11月7日(土)には6号倉庫と7号倉庫を巡回する形で、三つのダンス作品『踊りに行くぜ!! in 舞鶴』を上演した。一作目は7号倉庫を舞台に、関西でいま注目の若手ダンサー、齋藤亮さん率いるMOSTROによ

る舞鶴赤れんが倉庫のオリジナル作品。二作目は、ダンサー・森下真樹さんとバイオリニスト・宮嶋哉行さんのデュオ。ダンステクニックとユーモアが融合した作品は、観客からも高い評価をいただいた。この作品では、他の倉庫とは違う壁の材質によって、6号倉庫が楽器の演奏にとってこの上ない空間であることも実証された。そして三作目。再び7号倉庫に戻り、ダンサーの三浦宏之さんと星加昌紀さん（星三つ）と、電子音響を使用するhacoさんによる作品で締めくくられた。

いずれも目標数を上回る観客の方にご来場いただき、うれしいことに、その倉庫の活用方法は、賛否も含めて、大きな反響を呼んだ。

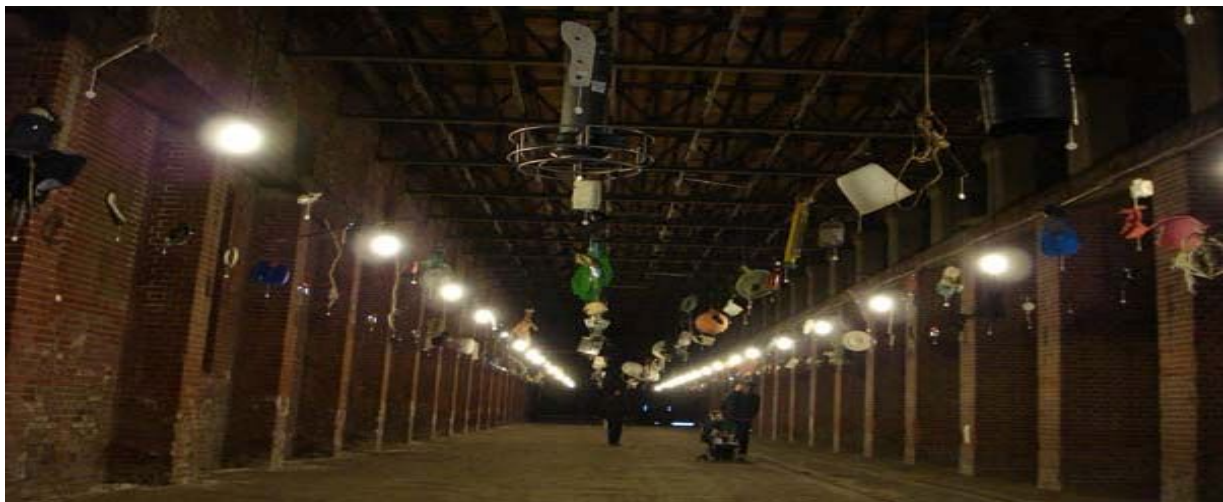
参加した出演者やスタッフらは、今回、通常の劇場よりも創作意欲を遥かに刺激された、という。倉庫自体の魅力はもちろん、その歴史的・地理的な意味合いが、劇場空間として大きなアドバンテージとなっている。今回の作品群で、それは十分に証明されたであろう。時間と場所の現前性（今その場で起きているということ）が重視される舞台表現では、どのような「場」で上演されるか、が直接的に作品にも結びつく。今回の舞台上演は、単に倉庫の活用法を提示するだけでなく、赤れんが倉庫群を魅力溢れる舞台装置として広く内外にアピールできたのではないだろうか。まいづるRB 企画・ディレクション 森真理子



2. 文化財を活かした地域振興

近年、「地域資源を活かしたまちづくり」という取り組みが全国的に広がっている。地域資源とは、地域固有の自然・風土・歴史・景観・伝統文化等を指すことが多いが、市民の認識の有無に関わらず、文化財、芸術、農業、漁業、企業、過去の人物、方言など、あらゆる分野に及び。意識されていないものは、市外からの訪問者によって“発見”されることも多い。誰かに“発見”された時点で“資源”の候補となるのだが、舞鶴では赤煉瓦倉庫群や神崎のホフマン窯などが“発見された資源”の代表格だ。昨年6月、赤煉瓦倉庫群は「舞鶴旧鎮守府倉庫施設」として重要文化財の指定を受けた。当倶楽部が発見以来、20年以上続けてきた地道な保存・活用活動によるところが大きい。

文化財は、日本や地域の歴史・文化等の正しい理解のため欠くことのできないもので、かつ将来の文化の向上発展の基礎をなすものとされる。地域資源として文化財の活用を図る場合、ハード整備をとともなう開発型の地域振興策は、文化財保護のためにさまざまな制約や規制を受けることがある。そんな中で、現在取り組まれている「まいづるRB」の実証実験や「ライトアート2009」は、文化財を活かした地域振興のあり方を示すものであり、大いに期待したい。（理事 吉岡博之）



「まいづるRB」の実証実験「浮遊博物館～海へつながる物たちへ～」

3. 「赤れんがライトアート in 舞鶴 2009」開催中

平成 21 年 11 月 23 日ライトアート点灯式を皮切りに舞鶴市北吸赤煉瓦倉庫群芝地にて、本年で 5 回目となる赤れんがライトアートを催しております。

今回のサブタイトルを「ひかりの動物園」として動物を模したオブジェを沢山製作しました。連日 100 名を越す来場者で賑わい、辺りには子供たちの楽しげな声が夜更けまで聞こえています。各メディアが好意的に誌面に取り上げてくれていますが、取り分け今回はインターネット情報に頻繁に掲載されており、若者たちの間では携帯電話のカメラで撮影してユーチューブというネットソースで、独自に動画を流し検索ヒット数を上げている人もいます。会期は 1 月 10 日までの長期開催で真冬に向かうこれからが本番と云える企画ですが、緊張の糸を切らさず取り組みたいと思います。(ライトアート実行委員会)



4. 新企画 (仮称)「舞鶴国際芸術祭」始動！ 参画しませんか？

現代アートによる地域の文化振興を図る新たな取り組みを検討している。赤煉瓦倉庫群や神崎ホフマン窯などのほか、市内各地の景勝地、廃校舎、空き店舗、公共空間などを展示会場とするものである。これまで、舞鶴市は国際貿易港として多くの国々と長年にわたり交易し、経済、文化の交流を積み重ねている。

そこで今回、芸術・文化交流に目を向け、北東アジアを視野に入れ国際的な芸術祭の開催ができないか話しあっている。ご存じのように、国内では、越後妻有の「大地の芸術祭」トリエンナーレ(2000～)、瀬戸内の直島や犬島のアートプロジェクトに端を発した瀬戸内国際芸術祭(2010 開催予定)等、アートによる文化振興と地域創造が注目されている。過疎化、高齢化、空洞化、廃校舎などの問題に直面する地域の振興にアートが深く関わることで、地域の経済、文化振興に好影響をもたらしている。それらを参考としながら、今

後、舞鶴ならでの取り組みを目指すことにしている。

まず、今年度は組織の立ち上げと企画書作成、来年はプレイベント、2011年は京都府で開催の「国民文化祭」の年に初開催を予定している。興味を持たれた方は、これから実行委員会を組織するので、参加希望、ご意見を倶楽部事務局までお寄せください。以下、各地の取り組みを紹介する。 (B)

5. その他

① 赤煉瓦ネットワーク会報「輪環 第072, 073号」お届けします。